

令和4年度 自己評価表

| | | | |
|---------------------------|----------------------------------------------|----------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|
| 中長期目標 (学校ビジョン) | 多様な価値観を尊重し、主体的に生きる力を育み、持続可能な地域を創造する人財の育成を図る。 | 今年度の 重点目標 | 1 主体的に取り組む態度・思考力・実践力の育成 2 他者を認め、人とつながる力の育成 3 地域を知り、地域に参画、寄与しようとする力の育成 4 働き方改革の推進 |
|---------------------------|----------------------------------------------|----------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|

| 年 度 当 初 | | | | 評 価 結 果 ()月 | | | |
|----------------------------|------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------|----|------|
| 評価項目 | 評価の具体項目 | 現状 | 目標(年度末の目指す姿) | 目標達成のための方策 | 経過・達成状況 | 評価 | 改善方策 |
| 1 主体的に取り組む態度、思考力の育成 | 授業改革の推進 | 各教科ごとにアクティブ・ラーニング推進月間を設定し、研究授業、授業研究会を実施している。1年次生中心にChromebookの活用を推進する必要がある。生徒アンケートの結果では意欲的に学習に取り組んでいると答えた生徒は90.6%であった。 | ・授業研究会の質的向上とICTの活用を推進し、授業スキルの向上を図り、主体的・意欲的に学びに取り組んでいると答える生徒が90%以上になる。 ・Chromebookを活用した授業が実施されている。 | ・課題解決学習の推進を図り、Chromebook等の活用を促進するため、活用法紹介通信の発行や職員研修・校内での授業公開等を実施する。また、このことを教員の端末利用や電子黒板利用促進に繋げる。(R3:89.5%→R4:90%) ・授業アンケートを実施し、自らの授業を振り返り、授業力の向上を図る。 | | | |
| | みらいチャレンジ活動の充実・発展 | みらいチャレンジ活動も6年を経過した。自分の問題として課題を設定したり、フィールドワークを実施したりするグループも徐々に増えてきたが、まだ調べ学習に終わるものも多い。 | ・地域の資源を活用した多様な教育活動をとおして、主体的に活動できる力が身につく。 | ・ハイレベル講座を1月に開催し、「思考力・判断力・表現力」の強化を図る。 ・グループ学習やフィールドワーク等を積極的に導入し、課題解決学習の充実を図る。 ・環境の変化に対応できるよう、活動をリモートで行えるよう準備を整える。 | | | |
| | 学習習慣の定着 | 家庭学習時間調査結果によれば、1日の学習時間が9月調査では1年140分、2年81分、3年164分となっており、学年によって差がある。 | ・「学習記録」を実施し、学習習慣定着に役立つ教員の指導が容易に行えるようになる。 | ・学習記録に基づいた生徒面談を実施し、効果的な個別指導を行う。 ・教科面談シートを活用し、成績不振者への指導を行う。 ・Classroomを活用し、生徒が主体的に学習できる環境を研究する。 | | | |
| | 進路指導の充実 | 国公立大学現役合格者が64名・難関私立大現役合格者16名であり、目標を達成できた。 | ・国公立大学現役合格者60名 ・難関私立大学現役合格20名 | ・総合型・学校推薦型選抜入試に対応できるようプレゼンテーションやグループディスカッション力が身につくよう指導する。 ・進路ガイダンスの充実を図り、生徒へ早期に動機付けをする。 ・小論文指導等を含め、全職員で取り組む。 | | | |
| 2 他者を認め、人とつながる力の育成 | 基本的生活習慣の確立 | 真面目な生徒が多く、年間の遅刻回数が1回以下の生徒の割合は90%である。自己肯定感の高まりを感じる生徒が57%程度である。 | ・年間の遅刻回数が1回以下の生徒の割合が90%以上。 ・自己肯定感の高まりを感じる生徒が70%。 | ・基本的生活習慣が学校生活を送る上で大切であることを認識させ、様々な場面において自主的に行動できるよう働きかけを行う。 ・情報モラル・リテラシーの指導を継続し、トラブル防止に努める。 ・生徒面談を活用し、生徒の意欲を喚起する取り組みを充実させる。 ・褒める指導を中心に、達成感を感じられる取り組みを展開する。 | | | |
| | 部活動の奨励 | 多くの生徒が部活動に所属し、活発に活動しているが、学業との両立に苦慮している生徒もいる。令和3年度は新型コロナウイルス感染症の拡大で影響を受けたものの、運動部全国・中国大会23競技、文化部全国大会5部門が出場した。 | ・運動部全国・中国大会20競技以上、文化部全国大会5部門以上出場 ・人前で発表する経験が得られる。 | ・本校部活動方針の枠組みの中で、効率的な部活動運営と生徒の主体的な取組を促進させる。 ・部活動と学業との両立ができるように、生徒個人の状況を把握しながら、部活動指導を行う。 ・新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、効率よく意欲的な活動ができるように計画を立てる。 ・部活動の場を保証する。 | | | |
| | 社会人講師の活用 | 社会人講師活用事業や家庭科・公民科の授業、総合的な探究の時間で実施している。 | ・社会人講師から多様な考え方や生き方、最先端の技術等を学ぶことで、社会の一員となる意識が身につく。 | ・人権教育・主権者教育・キャリア教育等幅広く社会人講師を活用し、豊かな心の育成、望ましい人間関係の構築、社会に参画する態度の育成を図る。 ・新型コロナウイルス感染症対策で、直接講演ができない場合でもリモートで対応できるよう計画する。 | | | |
| 3 地域を知り、地域に参画、寄与しようとする力の育成 | 地域資源を活用した教育活動の推進 | 地域資源の活用と積極的な地域連携を推進するために、令和元年度に米子市と「ふるさと教育における連携に関する協定」を締結した。 | ・みらいチャレンジ活動において、年間5回の連携を図り、地域理解が深まる。 | ・米子市と連携を密にし、円滑な探究活動を実施する。 ・課題テーマの提供、地域資源の紹介・接続、研究活動に係る指導助言、評価等について、米子市と連携し、探究活動の充実を図る。 ・ループリック評価表を充実するため、生徒の意見を反映させて探究活動に取り組むように促す。 ・みらいチャレンジ活動の期間を広げ、充実を図る。 | | | |
| | 学校の魅力・特色の情報発信 | 文化部が協働し、文化部総合芸術祭「翠燦く」を開催し、地域に本校の魅力を発信している。(令和3年度は新型コロナウイルス感染予防のため中止) | ・地域に情報を発信するとともに、地域を理解し、社会に貢献する態度が身につく。 | ・社会環境の変化に順応した発表方法を工夫し、学校情報の効果的な発信を行う。 ・ホームページに動画を掲載する。 | | | |
| 4 働き方改革の推進 | 時間外業務時間の削減 | 部活動の指導時間や教材研究、分掌業務等で、時間外業務を削減できない教員もあった。 | ・時間外業務時間月45時間、年間360時間を超える勤務者の解消。 | ・「鳥取県立米子西高等学校部活動に係る方針」を遵守する。 ・行事、会議の精選によって業務の効率化を図る。 ・各分掌の業務内容の見直しを図る。 | | | |

評価基準 A:十分達成 [100%] B:概ね達成 [80%程度] C:変化の兆し [60%程度] D:まだ不十分 [40%程度] E:目標・方策の見直し [30%以下]